

## ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県土木部建築課

# 調査地案内図



栃木県立農業高校新築敷地 地質柱状図 (NO. 1)

調査地点 栃木市平井919

標高 -4.85 m

調査年月日 昭和44年 4月 6日 ~ 4月 7日

孔内水位 G.L. + 3.10 m

標高 m	深度 m	層厚 m	柱状 図	色調	地質 名	観 察	相 対 密 度	相 対 稠 度	標準貫入試験					試料 採取 方法	試料 採取 深度 m		
									深度 m	N 値 回/cm	10cm毎の 打撃回数					N 値	
											10	20	30	40	50		
-5.75	0.90	0.90		黄褐色	ローム(盛土)	上部木根多く 下部締っている			1.00	20/30	7	5	8				
-7.65	2.80	1.90		暗青灰色	固結シルト	火山灰雲母片を混 入する 非常によく締っている		堅	1.30	31/30	5	10	16				
-8.45	3.60	0.80		黄灰色	シルト混り細砂	粒子の均一な砂で よく締っている		極密	2.30	50/27	12	19	19				
-11.75	6.90	3.30		暗青灰色	固結シルト	4.00m 附近に中30 %位の円礫含む 雲母片、火山灰多く 含む。5.00m 附近 厚さ5cm位の火山 灰層あり		堅	3.27	40/30	10	12	18				
-14.65	9.80	2.90		黄灰色	粘土混り 細砂	粒子の均一な細砂 で非常によく締っ ている 所々に凝灰質の砂 を含む火山灰、雲母 片混入		極密	4.30	38/30	9	12	17				
-18.08	13.23	3.43		暗青灰色	固結シルト	凝灰質である 所々細砂少量含 む		堅	5.30	50/25	17	15	18				
									6.25	47/30	13	15	19				
									7.30	39/30	10	12	17				
									8.00	42/30	9	11	22				
									8.30	50/29	17	18	15				
									9.00	50/24	16	23	11				
									10.29	50/21	20	25	5				
									11.00	50/23	17	23	10				
									11.24								
									12.00								
									12.21								
									13.00								
									13.23								

(註) 1. 試料採取方法の記号 (記号の右の数字は試料番号)

- 1 乱さない試料
- 2 貫入試験機による試料
- 3 コア-試料

2. 試料採取深度と回収比

3.20	3.20-3.70 (は試料採取深度 (m))
45	45
50	45
3.70	50 (は回収比 (50cm:貫入深さ, 45cm:試料長さ))

3. 標準貫入試験の頂で 10 cm 毎の打撃回数とは最初の 10 cm 貫入に要した打撃回数, 10cm~20cmの間で要した打撃回数, 20cm~30cmの間で要した打撃回数をそれぞれ示したものである。

栃木県立農業高校新築敷地 地質柱状図 (NO. 2)

調査地点 栃木市平井 919  
 調査年月日 昭和44年 5月 8日 ~ 月 日

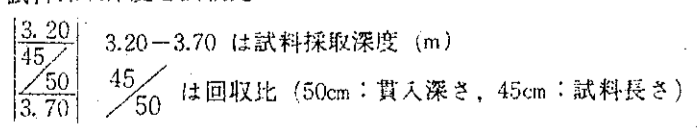
標 高 - 0.23 m  
 孔内水位 G.L.+2.10 m

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	層 厚 m	柱 状 図	色 調	地 質 名	観 察	相 対 密 度	相 対 稠 度	標 準 貫 入 試 験					試 料 採 取 方 法	試 料 採 取 深 度 m							
										深 度 m	N 値 回/cm	10cm毎の 打撃回数					N 値						
											10	20	30	0	10	20	30	40	50				
1	-1.53	1.30	1.30		黄褐色	ローム(盛土)	ガラ、木根多く含む		軟	1.00	4/32	1	2	1/12									
2	-2.93	2.70	1.40		黄灰色	凝灰質粘土	火山灰、小礫等を含む		中	1.32	5/31	1	2	2/11									
3									堅	2.31	38/30	9	10	9									
4					暗青灰色	固結シルト	火山灰、雲母片混入 5.00m附近含水量 や、大い よく締っている		極硬	3.00	23/30	7	6	10									
5	-5.93	5.70	3.00						極硬	4.00	18/30	5	7	6									
6									堅	4.30	50/28	15	18	17/8									
7					暗青灰色	固結シルト	処々5cm~10cm 位の砂屑あり 7.00m附近より細 砂屑挟む 火山灰、雲母片混入		堅	5.00	50/23	18	22	10/3									
8									堅	6.00	50/27	20	17	7									
9	-9.48	9.25	3.55						堅	6.28	50/25	17	21	12/5									
10										7.00													
11										7.23													
12										8.00													
13										8.27													
14										9.00													
15										9.25													
16																							
17																							
18																							
19																							
20																							

(註) 1. 試料採取方法の記号 (記号の右の数字は試料番号)

- 1 乱さない試料
- ◎-2 貫入試験機による試料
- 3 コア-試料

2. 試料採取深度と回収比



3. 標準貫入試験の項で 10 cm 毎の打撃回数とは最初の 10 cm 貫入に要した打撃回数, 10cm~20cmの間で要した打撃回数, 20cm~30cmの間で要した打撃回数をそれぞれしめたものである。

栃木県立農業高校新築敷地 地質柱状図 (NO. 3)

調査地点 栃木市平井919  
 調査年月日 昭和44年5月9日～ 月 日

標高 -0.35 m  
 孔内水位 G.L.+1.90 m

標高 m	深度 m	層厚 m	柱状 図	色調	地質 名	観 察	相 対 密 度	相 対 稠 度	標準貫入試験					試料 採取 方法	試料 採取 深度 m								
									深 度 m	N 値	10cm毎の 打撃回数					N 値							
											10	20	30	0	10	20	30	40	50				
				黄褐色	ロ-ム(盛土)	上部ガラ、火山灰 多量に含む 下部 粘土少量含む		軟	1.00	3/32	1	1	1/12										
-2.15	1.80	1.80							1.32														
				暗青灰色	固結シルト	2.80 <sup>M</sup> 附近凝灰質 細砂、粘土含む 火山灰多く混入する 全体的に風化され ているが固い		極硬	2.00	34/30	7	10	17										
									2.30														
									3.00	24/30	7	6	11										
-5.25	4.90	3.10		暗青灰色	固結シルト	火山灰、雲母片、微 粒砂多く含む		堅土	3.30	29/30	9	8	12										
									4.00														
									4.30	50/21	18	23	9										
									5.00														
									5.21	50/26	17	20	13										
									6.00														
									6.26	50/28	15	19	16										
									7.00														
									7.28	50/23	18	22	10										
									8.00														
									8.23														

(注) 1. 試料採取方法の記号 (記号の右の数字は試料番号)

- 1 乱さない試料
- ◎ 2 貫入試験機による試料
- 3 コア試料

2. 試料採取深度と回収比

$\frac{3.20}{45}$  3.20-3.70 は試料採取深度 (m)  
 $\frac{50}{3.70}$   $\frac{45}{50}$  は回収比 (50cm:貫入深さ, 45cm:試料長さ)

3. 標準貫入試験の項で 10 cm 毎の打撃回数とは最初の 10 cm 貫入に要した打撃回数、10cm~20cmの間で要した打撃回数、20cm~30cmの間で要した打撃回数をそれぞれ示したものである。

# 調査地点位置図

Scale 1/300

